

ニホンヒキガエル



鳥取県レッドデータブック指定種（情報不足）

鍋倉産

（撮影：桐原佳介）

「きつと南部町にはヒキガエルがいるはず！」そう思いながら探し続けて4年目の夏、近所の小学生のYちゃんから電話がありました。「お婆ちゃん！ヒキガエルみたいなのが道路で死んだら！」その連絡を受けて、私はすぐに見に行きました。そこには、車にひかれた大きなヒキガエルがいたのです。これが私にとって、南部町で初めて見たヒキガエルでした。

鳥取県にはヒキガエルの仲間が2種類います。東日本に棲むアズマヒキガエルと、西日本に棲むニホンヒキガエルです。鳥取県は、ニホンヒキガエルとアズマヒキガエルの両方がある珍しい場所なので、ヒキガエルを見つけたときはどちらでもある可能性があります。アズマとニホンとの識別点は、鼓膜の大きさの違いです。今回見つかったヒキガエルは、鼓膜が小さめだったのでニホンヒキガエルでした。

これ以降、私は鴨部、鍋倉、金山の3カ所でニホンヒキガエルを確認しました。また、伐株、田住では細長いヒモ状の卵塊を見つけてました。しかし、卵塊だけではニホンか

アズマかは分かりませんので、来年は産卵現場に立ち会いたいと思っています。

ヒキガエルの集団産卵は「がま合戦」と呼ばれていて、わずかのメスにたくさんのおスが群がって抱きつき、手足でライバルを押しつけてメスを奪い合うという、まさに合戦を繰り返します。合戦中のオスは、時々間違えてオスに抱きついてしまいます。そんな時、抱きつかれたオスは、「俺はおスだよ。」と訴えんばかりに「ココココ」と鳴きます。ヒキガエルを見つけたら、軽く脇腹を押さえて持ち上げると、顔に似合わないくらい愛らしい声を聞く事ができるかもしれません。ただし、目の後ろの耳腺から白い毒液がでることもあるので、くれぐれもいじめ過ぎないように注意してください。

かつては民家の庭先によく現れたというヒキガエル。今でも皆さんのお家のそばに、この愛嬌たっぷりの生き物がさりげなくいるかもしれませんよ。

自然観察指導員 桐原真希